



# 市長 からの 手紙

## 56 富士見櫓

今年の川越市議会第2回定例会一般質問で、川越城富士見櫓に関する質問がありました。富士見櫓は、県立川越高校の南隣の小高い場所に建っていたとされています。この場所には御嶽神社があることから、私が子どものころは、皆「おんたけさん」と呼んでいて、小学校の下校途中に寄り道して上まで登ったり、友達と遊びまわったりした懐かしい場所です。

当時、頂上部分には古びた社と人(神主さん)の住む建物があり、北側と西側の斜面が林となっていて、全体が山のような雰囲気にもまれていました。現在は建物の跡地を取り囲むように樹木が高く大きく育っています。特に天を突くように真っ直ぐのびたイチヨウと、トム・ソーヤーの小屋が樹上にできそうなくらいに太く枝を広げたクスノキは、神秘的な印象を与える大木になっています。

ところで、川越市には27年前に作った「初雁公園整備基本構想」という公園構想があります。バブル経済の絶頂期に考えたもので、堀跡を含め城全体を復元しようという、財政の厳しい時代には実現困難なほどの壮大な構想です。この構想はバブル崩壊により、見送りとなりました。

15年くらい前に、当面富士見櫓の復元だけをしようと、櫓は2層なのか3層だったのかなどの議論を経て、櫓の外観図等が作成されています。

富士見櫓跡地に櫓を復元すると、遠くからも目立ち、また、中からの見晴らしが大変良い建物になると思われます。しかしながら、復元するためには、前記のイチヨウやクスノキも、現在ある大木も全部切り倒さなければなりません。街中に残された数少ない林地、大木を切り倒すかどうかは、慎重に考えたいと思っています。

市では、6年後の市制施行100周年を見据えて、初雁公園整備基本構想をはじめ、いくつかの公園構想を整理修正し、実現に向けての検討を今年度から開始する予定です。その過程で、富士見櫓の復元を行うかどうか、市民の皆様のご意見を十分お聞きして進めていきたいと考えています。

川越市長 川合善明

環境にやさしい行動を目指して 14  
人をつなぐ緑のカーテン

環境政策課 ☎224-5866

暑い夏がもうすぐやってきますね。冷房をつければ涼しくなりますが、省エネのことを考えると、少しでも冷房に頼らず涼しく過ごしたいもの。

その方法の一つが、つる性の植物を窓や壁面に張ったネットにはわせて日陰を作る「緑のカーテン」です。緑のカーテンを利用すれば、室内の温度上昇を抑えることができます。



ゴーヤとアサガオの緑のカーテン

緑のカーテンは、省エネ以外に人と人をつなげる効果も持っています。自宅に作ったことでも、関心を持った近所の方から話し掛けられたり、作り方を教えてほしいとお願いされたりする方もいるそうです。地域とのつながりの希薄化が問題になっている現代において、緑のカーテンは人とのつながりのきっかけになってきています。

本市では、緑のカーテンの普及を進めています。昨年度は、市内の保育園や小中学校など80か所の公共施設に設置しました。また、毎年「緑のカーテン講座」「緑のカーテンフォト展」も開催しています。

緑のカーテンはこれからの時期がちょうど始め時です。楽しく育てて、涼しい毎日を過ごしてみませんか。